

十勝管内漁業士会だより



はちまき

第21号

平成29年8月10日発行
発行人 十勝管内漁業士会
事務局
北海道十勝総合振興局
産業振興部水産課内
帯広市東3条南3丁目
電話 0155-27-8609

昨年を振り返って

十勝管内漁業士会 会長
大樹漁協所属 指導漁業士 花川 慶一



十勝管内漁業士会だよりの発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

まず、中田前会長が北海道の漁業士活動に対する多大な貢献が認められ、平成28年度北海道産業貢献賞を受賞された事に敬意を表します。

また、大変残念ですが、平成12年から23年まで漁業士として共に活動していた前大津漁業協同組合長の茅野 優さんが平成28年9月にお亡くなりになりました。北海道の漁業振興にご尽力された茅野さんには、漁業士時代から大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。

このように先輩方が築かれました十勝漁業士会の伝統と歴史を思うと、その重責に身の引き締まる思いがします。

漁業士会活動においては、9月に行った親子食育教室では、漁協女性部や組合職員、振興局の協力のもと無事に事業を推進することができました。大変感謝しております。今後とも十勝の漁業が多くの人に知っていただき、多くの方に十勝で獲れる魚を食べてもらうために活動を続けて行きたいと思っておりますので今後ともご協力をお願いいたします。

次ページより城山漁業士から報告がありますが、2月6日から8日の日程で道外視察研修を行いました。漁業士5名事務局1名で大阪市と東京都の市場などを視察しました。特に関西エリアにおける北海道水産物の消流動向等についてぎょれん大阪支店から説明をいただき、その後の卸売業者との意見交換では、秋サケ、昆布、シシャモ等の主要な十勝産水産物の売れ行きや評価などについて、多くの有益な情報を得ることができました。この研修で得た経験や情報を十勝漁業士会の取組に役立てていきたいと思っております。

昨年の8月には、観測史上初となる3つの台風が連続して本道に上陸したことにより、道内各地で未曾有の被害が発生しました。十勝では川が氾濫し、橋の流出等が相次ぎ道路や鉄路が壊滅状況になりました。漁業においても、大量の流木が海へ流出し、サケ定置やシシャモ漁業等に大きな被害影響を及ぼし、改めて自然災害の恐ろしさを思い知らされたところでもあります。

このように従来の常識では考えられない異常気象による自然環境の変化により、海水温の上昇や魚種の変化等、漁業を取り巻く環境が激変していく中、私たちはこれまでの経験を生かし、考え、今年こそはと鼓舞し、希望をもって行動し挑戦していこうと思っております。

少ない人数ではありますが、一生懸命活動をしていきたいと思っておりますので、今後とも十勝管内漁業士会に対する皆様のご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

道外視察研修を終えて

広尾漁業協同組合所属 漁業士 城山 美津枝



2月6日～8日の日程で道外視察研修として大阪、東京を訪問しました。大阪市市場は平成23年に視察して以来約6年ぶりの訪問でした。

2月6日に雪の帯広空港を出発し、羽田空港で乗り換えて大阪伊丹空港へ到着。空港から電車を何度か乗り換え向かったぎょれん大阪支店では関西方面での北海道産水産物の消費動向等について説明を受けたほか、意見交換会では秋サケ・コンブ・シシャモ等の主要な北海道産(十勝産)水産物の売れ行きや評価などを聞くことができました。

余談ですが、このとき対応していただいたぎょれん大阪支店の上村支店長はこの4月より十勝を所管する釧路支店の支店長となられており、実は少しばかり早い顔合わせとなっていたのです。ぎょれんでの研修後、ホテルに移動し夕食は道頓堀で鯛めしを中心とした魚料理のコースをいただきました。北海道ではあまり目にするものない種類の魚を使った料理は、やや薄味のものが多かったです。

翌日2月7日は早朝5時から卸売り大手の(株)大水の児島部長とぎょれん大阪支店の濱野さんの案内により大阪市中央卸売市場を視察しました。時化の影響で鮮魚の入荷は少ないようでしたが、山陰や九州などから入荷した鮮魚が取引されていました。残念ながら北海道産の鮮魚の取り扱いはありませんでしたが、仲卸には塩干品の鮭やイクラ等は並んでいました。

その後、(株)大水の社内で事前に送付した十勝産水産物を披露し意見交換を行いました。関西方面での北海道産海産物の扱われ方として、得意先から「北海道産」と指定があった場合に仕入れることが大半を占めていると説明を受けました。北海道産のサケについて販路拡大に繋がる話を聞ければ良かったのですが、関西ではサケといえば紅ザケを指し、紅ザケに比べるとシロサケの需要は少なく、贈答用向けに新巻が流通することがメインとのことでした。持ち込んだ十勝産水産物の中では特に大きな煮タコ足や干しシシャモに興味を持ったようでした。



出発前の記念撮影



ぎょれん大阪支店の皆さん

大阪市市場の視察後は市内の黒門市場に移動しました。この市場は元々は大阪の料理人向けの市場でしたが、最近では国内外の観光客に向けた「食べ歩きのできる市場」に変化しているそうです。実際、春節期間中のこの日は多くの中国や台湾からの観光客が訪れており、店先で海産物や牛肉を購入し設置された焼台で焼いて食べていました。殻付きウニも売られており、1個1,500円以上もするウニをどんどん購入する中国人・台湾人観光客の購買力に驚かされました。その一方で昔ながらの料理人向けの店も数多く残っており、北海道産のコンブやパック詰めされたタラの白子などが売られていました。その後、デパートの魚売り場も見ましたが説明のあったとおりサケは紅ザケばかりが店頭に並んでいました。

新幹線で東京に移動し、2月8日は早朝から築地市場を視察しました。本来水曜日は休業日なのですが、週末の土曜日が祝日で休業となるため、この日は代替で開場されていました。これまでに何度も築地市場を訪れているのですが、水曜日に開場していることが珍しいことから、人が非常に少なくゆっくりと見ることができました。

築地市場視察後は横浜中華街に移動。横浜で暮らしていたことのある十勝総合振興局の筒井係長にお勧めの店を予約してもらい、昼食は飲茶のコースを楽しみました。その後は中華街を見学、土産物を購入し2泊3日の行程を終えて帰郷しました。

普段なかなか訪れることがない地域や場所での視察や意見交換は非常に有意義なものでした。この経験が今後の十勝管内漁業の発展の取組に役立つのではないかと思います。



(株)大水での意見交換の様子



外国語の説明付きで売られている(黒門市場)



ゆっくり見ることができた築地市場



横浜中華街

【異動挨拶】

十勝地区水産技術普及指導所 所長 船木 周平

漁業士の皆さん、この度、4月1日付けの異動で再び十勝勤務となりました。久しぶりに戻ってきた十勝の景色は大きく変わっていました。一昨年、昨年の強風により道路周辺では多くの木が倒れたままとなっており、一部では畑を守っていた防風林が見る影もなく消えていました。また、昨年の台風では多くの川で河口の形状が変わり、太平洋に流された流木は未だに多くの漁業に影響を与えています。今更ながら驚くばかりです。

昨年はその影響なのか、さけ定置やししゃも漁業の減産に加えて、コンブも大幅に水揚げが減少し、けがに籠漁業はノルマを達成できないまま終漁を迎えました。このような厳しい状況の中で、今が十勝の漁業の底力を見せるときと考えます。今年こそ大漁を願っております。

ところで、前回の勤務では、漁業士の皆様と多くの水産学習や食育事業に関わったことを思い出します。漁業士会主催の食育事業のほかに、地元では地域ごとの水産学習等に積極的に参加して、子供達に魚の美味しさや漁業を紹介する姿にはとても驚かされましたし、忙しい中で本業である漁業の合間を縫っての活動には頭が下がる思いでした。その中で、私が特に記憶にあるのは、帯広の小学校で行った食育授業の1シーンです。児童全員が十勝漁業士会の会報名である「はちまき」をして記念写真を撮ったときの子供達の大喜びする姿でした。

この様に皆様の地道な活動は、将来を担う子供達の意識を変え、水産業や水産物に対する理解と支持につながるに違いありません。近年、組合員が高齢化している中で、皆様が果たす役割は大きいものと考えており、これからの更なる活躍に期待しております。

また、指導所としても、世界的に和食が見直され、北海道の魚介類が注目されてきている中で、多くの人に十勝の魚介類の美味しさや漁業の果たす役割について知ってもらうためには、これからもこの活動を長く継続することが大切と考えています。皆様とともにがんばりたいと思いますので、今後ともよろしく申し上げます。

平成28年 活動報告

平成28年 2月20日	第20回北海道漁業士会 オホーツク・太平洋会議 参加
平成28年 7月25日	十勝管内漁業士会だより はちまき 第20号発行
平成28年 9月25日	食育事業(漁師が先生、親子食育クッキング)実施
平成28年12月17日	平成28年度十勝管内漁業士会総会開催
平成28年12月18日	十勝海の幸うまいもん祭り 協力